

日本教育方法学会

第45回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 9 月 26 日 (土)	8 : 30	受 付 開 始						
	9 : 15	課 題 研 究 I				課 題 研 究 II		
		「習得・活用・探究」のあり方を問う				シティズンシップ教育の教育方法学的課題		
	11 : 15							
	11 : 20							
	12 : 10	総 会						
	13 : 00	休 憩						
		自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7
	15 : 40							
	15 : 50	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム						
		現代の学校・授業における共同性（平等）の問題 一子ども生活・福祉から授業を問い直す一						
	18 : 20							
18 : 30								
20 : 00	会 員 懇 親 会							

第 二 日 9月27日(日)	8 : 30	受 付 開 始							
	9 : 00	自由 研究 8	自由 研究 9	自由 研究 10	自由 研究 11	自由 研究 12	自由 研究 13	自由 研究 14	自由 研究 15
	12 : 10								
	13 : 15	休 憩							
	15 : 15	課 題 研 究 Ⅲ 民間教育運動における教育実践・ 研究の現状と課題				課 題 研 究 Ⅳ〔大会校企画・公開〕 方法の生成を問う －実践のビデオ映像による現象学的省察－			
	15 : 30								
	17 : 00	ラウンドテーブル①		ラウンドテーブル②		ラウンドテーブル③		ラウンドテーブル④	

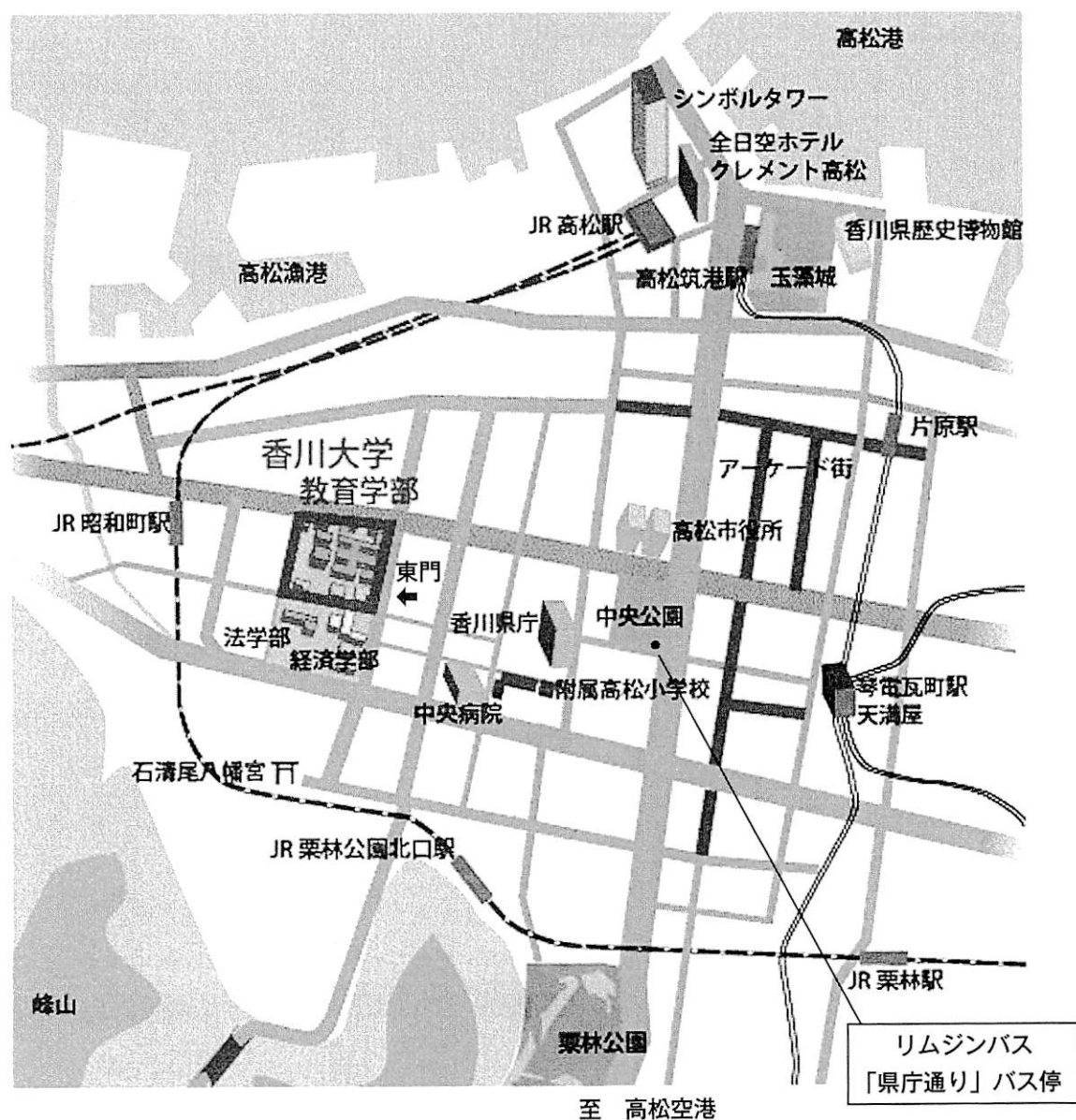
2009年 9月26日(土)・ 9月27日(日)
於 香川大学教育学部

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、香川大学教育学部です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：両日ともに8：30からとなります。
受付は415講義室前で行います。
 - ・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法38』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：土日ですが、学内の食堂が営業しておりますので、ぜひご利用ください。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
 - 個人研究：発表20分 質疑10分
 - 共同研究：発表30分 質疑10分
 - （但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

※大会に関するお問い合わせは、前々日24日までに学会事務局（TEL/FAX：082-424-6744）をお願いいたします。

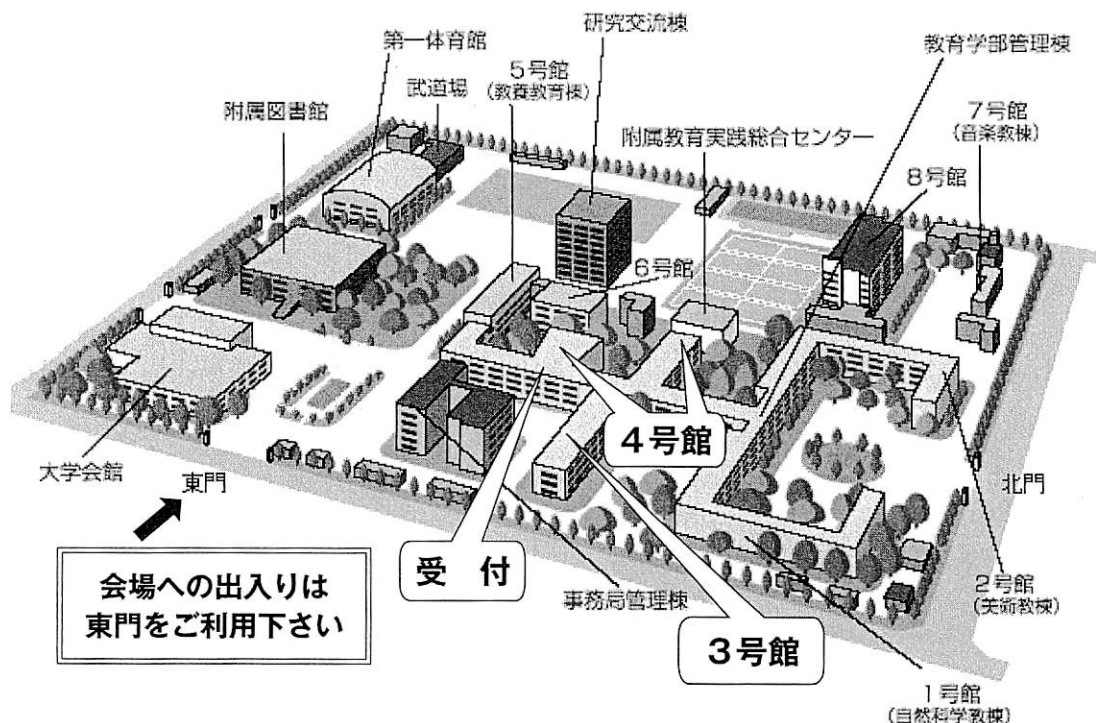
〈香川大学案内図〉



〈交通手段のご案内〉

- ① JR 高松駅から
 - ・徒歩20分
 - ・タクシーで約10分
 - ・JR 高徳線「高松駅」→「昭和町駅」下車 徒歩5分
- ② 高松空港から
 - ・高松空港リムジンバス高松駅行き「県庁通り」下車。徒歩15分。
 - ・タクシーで約30分

〈会場配置図〉



会場配置

総会・

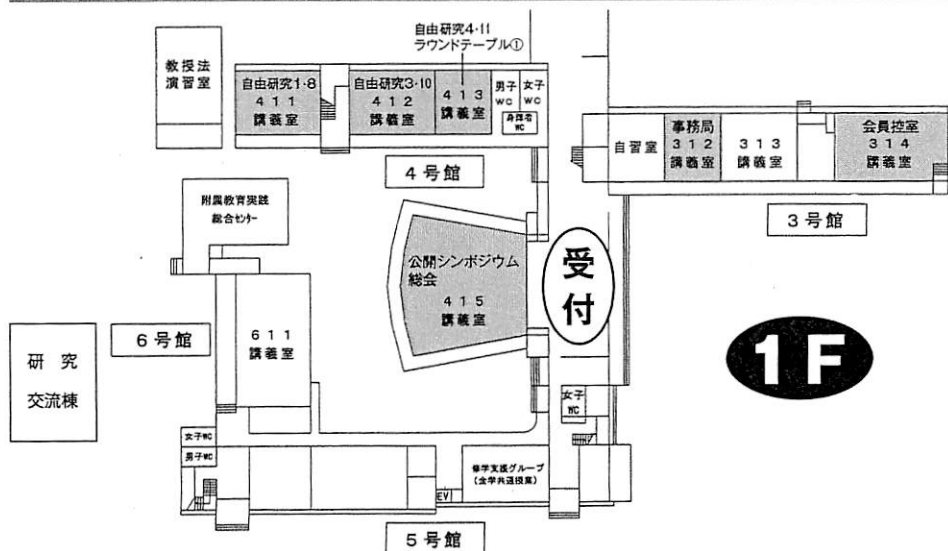
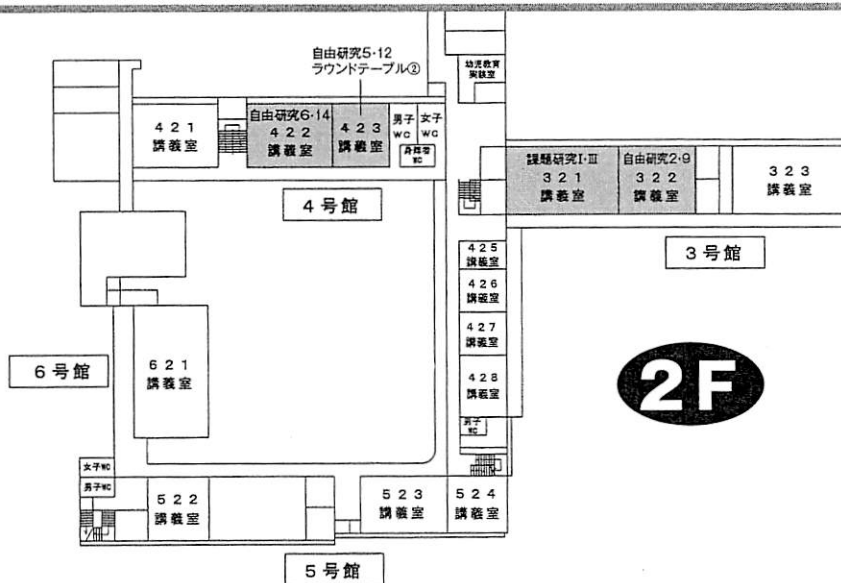
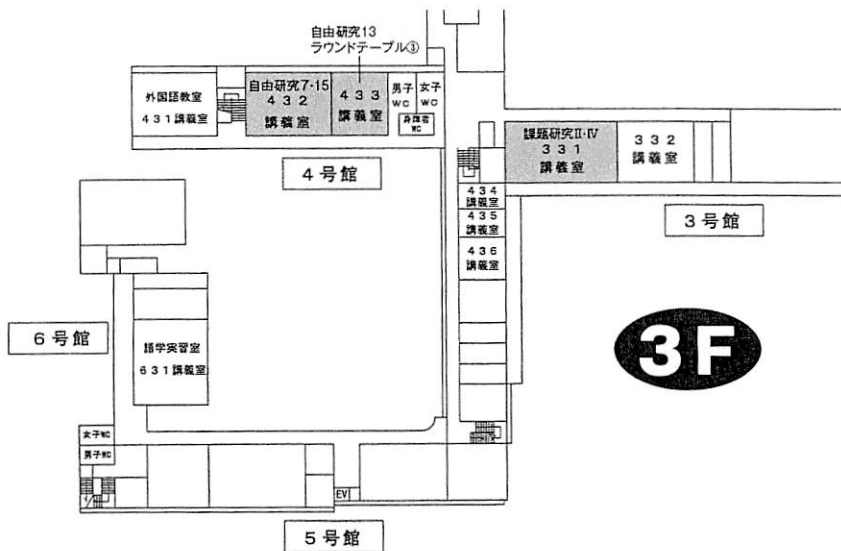
公開シンポジウム	： 4号館 1階415講義室
課題研究Ⅰ・Ⅲ	： 3号館 2階321講義室
課題研究Ⅱ・Ⅳ	： 3号館 3階331講義室
自由研究Ⅰ・Ⅷ	： 4号館 1階411講義室
自由研究Ⅱ・Ⅸ	： 3号館 2階322講義室
自由研究Ⅲ・Ⅹ	： 4号館 1階412講義室
自由研究Ⅳ・Ⅺ	： 4号館 1階413講義室
自由研究Ⅴ・Ⅻ	： 4号館 2階423講義室
自由研究Ⅵ・Ⅼ	： 4号館 2階422講義室
自由研究Ⅶ・Ⅾ	： 4号館 3階432講義室
自由研究Ⅼ	： 4号館 3階433講義室

ラウンドテーブル①	： 4号館 1階413講義室
ラウンドテーブル②	： 4号館 2階423講義室
ラウンドテーブル③	： 4号館 3階433講義室
ラウンドテーブル④	： 研究交流棟 5階

会員控室	： 3号館 1階314講義室
事務局	： 3号館 1階312講義室

※会員懇親会の会場は、生協食堂（大学会館）です。

〈教室配置図〉



東門より



9月25日(金) 公開授業・授業討議会

香川大学教育学部附属高松小学校

■ 課題研究Ⅰ「『習得・活用・探究』のあり方を問う」(大会1日目)と連動して、大会前日に、香川大学教育学部附属高松小学校において、公開授業及び授業討議会を行います。参加は無料となっております。多数のご参加をお待ち申し上げます。

■ 当日の参加も可能ですが、資料の用意等の関係から、9月18日(金)までに、学会事務局(TEL/FAX:082-424-6744)へお申し込みください。その際、参加を希望する授業、また、授業討議会への参加の有無もお知らせください。

■ プログラム 大会前日9月25日(金)

9月25日(金)	14:30～	受付	□会場：香川大学教育学部附属高松小学校玄関
	14:55～15:40	公開授業	□6年国語科 本館3階図書室 □5年算数科 本館3階5年赤組教室
	16:00～18:00	授業討議会(合同)	□恵心館2階南

■ 公開授業

テーマ(案)	活用する力を育むパフォーマンス評価 ～パフォーマンス課題とルーブリックを生かした単元モデル～	
学年・教科	第6学年 国語科	第5学年 算数科
授業者	山村 勝哉	堀場 規朗
単元名	意見を印象的に伝えよう ～物語で、プレゼンで～	三角形の角を調べよう
単元の概要	文章構成についての知識を活用し、百年後の生活を予想して発表する学習である。目的に合わせて資料を収集する力と、「物語」と「プレゼンテーション」との発表方法を選択する力、さらに、学習過程で定期的に推考の時間を取ることで自己評価の力も育てていく。	合同な図形によって平面をしきつめる活動を通して、図形の様々な性質を見つけ出すとともに、図形の美しさや不思議さを感じ得る。図形の性質を説明する際には、既習である三角形の性質など、その根拠を明らかにし、分かりやすく筋道立てた説明ができるようにしたい。

■ 授業討議会

(司会者) 久利 知光

- ☐ テーマに基づき2本の公開授業を踏まえ合同で行う。
- ☐ 参会の皆様よりご意見をいただく機会を設定し、交流を図る。

■ 附属高松小学校へのアクセス

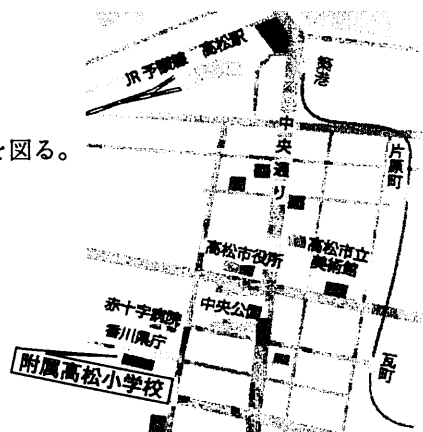
〒760-0017

高松市番町5丁目1-55

JR高松駅より 徒歩20分

JR高松駅より タクシー5分

市内バス「県庁前」下車 徒歩1分



課題研究Ⅰ

「習得・活用・探究」のあり方を問う

(3号館2階321講義室)

コーディネーター・司会者

片上 宗二 (安田女子大学)

田中 耕治 (京都大学)

提案者

廣瀬 貴志 (香川大学教育学部附属高松小学校) 「活用」に着目した指導と評価…………… 25

鶴田 清司 (都留文科大学) 知識・技能の活用を促す授業づくり
—「習得」と「活用」の二分法・段階論を超えて—
…………… 27

豊田 ひさき (中部大学) 授業研究の立場から「習得・活用・探究」のあり
方を探る…………… 29

〈設定趣旨〉

今回の学習指導要領改訂で注目されるのは、「習得・活用・探究」という用語によって、望ましい学力や学習のあり方を提起したことである。この提起は、第2次世界大戦後の教育課程改革の歴史を踏まえると、全体としてバランスをとることを重視した編成原理をめざそうとしたものと考えてよいだろう。しかしながら、「習得・活用・探究」のバランスをとるとは、いかなる理論と実践を想定することになるのか。

この点になると、多くの課題を残している。本課題研究では、①「習得・活用・探究」を学習活動の類型とした場合には、学力の要素との関係はどうなるのか、②「習得・活用・探究」の関係—とくに「習得」と「活用」の関係、「習得・活用」と「探究」の関係—をいかに構想して、実践すべきなのか、さらには③「習得・活用・探究」と「学習意欲」との関係は、どのように理解して、実践されるべきなのか、④「習得・活用・探究」をはたしてどのようにして評価するのかについて、さまざまな立場から検討を加えたいと思う。

*なお、本課題研究と連動して、大会前日に附属高松小学校で公開授業・授業討論会が行われます。詳しくは6頁をご参照ください。

9月26日(土) 9:15~11:15

課題研究Ⅱ

シティズンシップ教育の教育方法学的課題

(3号館3階331講義室)

コーディネーター

池野 範 男 (広島大学)

子 安 潤 (愛知教育大学)

司会者

子 安 潤 (愛知教育大学)

久 田 敏 彦 (大阪教育大学)

提案者

池野 範 男 (広島大学) 教育におけるシティズンシップ教育の役割と意義
..... 30

新井 浅 浩 (城西大学) 英国におけるシティズンシップ教育の展開とその意義
..... 32

小玉 重 夫 (東京大学) シティズンシップ教育の政治性
ー学校づくりとカリキュラム改革の視点からー
..... 34

〈設定趣旨〉

EUのような地域統合的な動向あるいはグローバルな人の移動に伴う社会の多文化化の進展に伴って、シティズンシップ教育が各国、各地域、いろいろな組織や団体で取り組まれるようになっていく。各地のシティズンシップ教育は、社会状況のちがいが、目標とする教育観のちがいが、教育の場のちがいがによって、性格の異なる教育活動として展開されている。そのちがいは、シティズンの捉え方において、(市民)社会の担い手としてアクセントを置くのか、それとも(国民)国家の担い手としてアクセントを置くのかに関わっているように思われる。そうしたちがいを含め、シティズンシップ教育の多様な試みが国内外で広がりを見せている。

本課題研究Ⅱでは、シティズンシップ教育の各種の議論を検討しながら、それが今なぜ注目されるのか、その試みが提起する問題を教育方法学の分野としていかに受け止め課題化していくのか、教育研究上の焦点を浮かび上がらせていきたい。

9月26日(土) 13:00~15:40

自由研究 1

(4号館1階411講義室)

司会者 木内 剛 (成蹊大学)
藤原 幸男 (琉球大学)

- 13:00 ① 「わからなさ」への勇気
—教育的世界の超越論的考察— 36
崎浜 聡 (香川大学大学院)
- 13:30 ② ・アクション・リサーチによる当事者主体型授業研究の実現化
—教師のエンパワーメントと授業研究— 37
○藤本 和久 (慶應義塾大学)
大島 崇 (九州大学大学院)
鹿毛 雅治 (慶應義塾大学)
- 14:00 ③ アクション・リサーチによる当事者主体型授業研究の実現化
—コーディング・システムの開発とコミュニケーション・パターンの分析— 38
○大島 崇 (九州大学大学院)
藤本 和久 (慶應義塾大学)
鹿毛 雅治 (慶應義塾大学)
- 14:30 ④ 言語学的アプローチによる授業構成に関する考察 39
八木 秀文 (広島大学大学院)
- 15:00 ⑤ 授業分析用中間記述言語の演算可能性
—知識ベースとしての授業記録の蓄積と活用をめざして— 40
柴田 好章 (名古屋大学)

自由研究 2

(3号館2階322講義室)

司会者 安彦 忠彦 (早稲田大学)
水原 克敏 (東北大学)

- 13:00 ① フランスのバカロレア試験における「接続」のあり方
—高校の学習指導要領及び教科書との比較を通して— 41
細尾 萌子 (京都大学大学院)
- 13:30 ② 新小・中学校学習指導要領の課題と展望
—中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の動向と音楽科を事例として— 42
高須 一 (文部科学省初等中等教育局)
- 14:00 ③ 学校カリキュラムの開発と評価に関する一考察
—雑誌「カリキュラム」の分析を通して— 43
吉田 成章 (広島大学)
- 14:30 ④ オーストラリアにおけるナショナル・カリキュラム策定の動向に見る
リテラシー教育の「公正」と「質」の問題 44
竹川 慎哉 (中部大学)
- 15:00 ⑤ 大学教養教育におけるコンピテンシーの批判的検討 45
杉原 真晃 (山形大学)

9月26日(土) 13:00~15:40

自由研究3

(4号館1階412講義室)

司会者 天野正輝(京都大学名誉教授)
小野擴男(岡山大学)

- 13:00 ① ドイツ教授学の学的固有性に関する一考察
—ペーター・メンク (Peter Menck) を手がかりに— 46
樋口裕介(広島大学大学院)
- 13:30 ② 中国における「主体性教育」の検討
—裴娣娜の理論と実験に焦点をあてて— 47
李霞(京都大学大学院)
- 14:00 ③ 現実(公的事象)に関わる協働学習の事例研究
—社会構成主義的カリキュラムの射程の検証— 48
広石英記(東京電機大学)
- 14:30 ④ 授業分析における現象の記述形式
—現象の解釈内容の明示化— 49
的場正美(名古屋大学)
- 15:00 ⑤ スウェーデンの基礎学校および高等学校における
sex och samlevnad (性と人間関係) 授業実践事例の検討 50
佐藤年明(三重大大学)

自由研究4

(4号館1階413講義室)

司会者 小泉祥一(東北大学)
田上哲(九州大学)

- 13:00 ① アンブラグドインフォメーションスタディを重視する情報教育
—情報学を主体とした学習— 51
安谷元伸(滋賀大学教育学部附属中学校)
- 13:30 ② 物語る行為としての歴史知1
—内容と方法の統合のために— 52
小笠原喜康(日本大学)
- 14:00 ③ 物語る行為としての歴史知2
—語り部としての教師の役割— 53
柴山英樹(聖徳大学)
- 14:30 ④ 教室談話における教師の役割についての一考察(2)
—自律した学び手の育ちを志向する授業の分析をもとに— 54
吉永紀子(福島大学)
- 15:00 ⑤ 10年次研修者における共生できる職場環境を目指した教師力尺度開発 55
○白石紳一(埼玉県立大井高等学校)
○仲久徳(早稲田大学・非常勤)
平山満義(早稲田大学・非常勤)

自由研究5

(4号館2階423講義室)

司会者 小川博久(聖徳大学)
中坪史典(広島大学)

- 13:00 ① 子どもの空間認識の発達
ー三次元のものを二次元に写す変換ー..... 56
本屋禎子(大阪女子短期大学)
- 13:30 ② 子どもの空間認識の発達
ー関係性の転換と矛盾ー..... 57
○藤原新(東北大学大学院)
黒澤若菜(孫まで三代私の学び)
本屋禎子(大阪女子短期大学)
- 14:00 ③ 子どもの空間認識の発達
ー「反対しりとりゲーム」による働きかけー..... 58
○黒澤若菜(孫まで三代私の学び)
藤原新(東北大学大学院)
本屋禎子(大阪女子短期大学)
- 14:30 ④ 主体性育成のための教育方法に関する考察
ー今/型/現在ー..... 59
伊澤貞治(皐月幼稚園)
- 15:00 ⑤ 人格的自立と専門性の養成を統一するカリキュラムのための一考察
ー学生の学びの内実についての検討ー..... 60
○光本弥生(鈴峯女子短期大学)
○森美智代(鈴峯女子短期大学)
○渡邊真依子(鈴峯女子短期大学)

自由研究6

(4号館2階422講義室)

司会者 中野和光(美作大学)
長谷川順一(香川大学)

- 13:00 ① 英語教育における協同学習研究の現状と課題..... 61
亘理陽一(静岡理科大学・特命講師)
- 13:30 ② イランにおける算数教育の授業研究
ーテヘラン私立A小学校4年算数「かけ算」の事例分析ー..... 62
サルカール アラニ・モハメッド レザ(星城大学・研究員)
- 14:00 ③ 小学校低学年算数「長さ」における操作活動と概念の拡張..... 63
中島淑子(愛知県東浦町立卯ノ里小学校)
- 14:30 ④ 単元全体を見通した校内授業研究のあり方
ーヴィゴツキーの考えを取り入れた算数授業を通してー..... 64
鈴木公司(名古屋女子大学・非常勤)
- 15:00 ⑤ 小学校特区英語教育における「教育課程編成・教材・文字指導」の現状..... 65
加納幹雄(金沢大学)

9月26日(土) 13:00~15:40

自由研究7

(4号館3階432講義室)

司会者 本田 敏明(茨城大学)
松本 康(香川大学)

- 13:00 ① 自己変容に気が付くまでの私のプロセス
—授業実践研究の2つの出来事から開かれたもの—…………… 66
西内 貴美(香川大学大学院)
- 13:30 ② ESDにおける「学び」についての一考察…………… 67
岩本 泰(東海大学)
- 14:00 ③ 生活科から総合への入門期の学習作り
—自然と人間の暮らしへの関心を深めさせる活動を通して—…………… 68
山崎 早苗(千葉市立高洲第二小学校)
- 14:30 ④ 子どもが視野を広げ、総合的に技能を向上させる中で、おもしろさを味わう
—小学校5・6年体育科「バスケットボール」の実践を通して—…………… 69
黒澤 和美(福島大学大学院)
- 15:00 ⑤ 総合的な学習を中心としたハイブリッド型教育の創発…………… 70
○山住 勝広(関西大学)
○今宮 信吾(関西大学)

9月26日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

現代の学校・授業における共同性（平等）の問題

— 子どもの生活・福祉から授業を問い直す —

(4号館 1階415講義室)

コーディネーター・司会者

柴田 義松 (東京大学名誉教授)

湯浅 恭正 (大阪市立大学)

提案者

新居 琴 (大阪府交野市立妙見坂小学校) 排除されがちな子どもと学校・授業…………… 71

奥平 康熙 (和光大学) 授業における文化的的不平等…………… 72

白石 陽一 (熊本大学) 貧困と授業実践・授業論を問う
— その基本的視座 —…………… 74

指定討論者

海崎 義隆 (元・香川県公立小学校)

〈設定趣旨〉

格差社会における「貧困」問題は、子どもたち・親たちの生活の土台を揺るがし、階層分化と学力問題・発達の基盤に困難さを抱える子どもの問題をつくり出すなど、生活や福祉の観点から学校や授業のあり方を問い直す時代状況が進行している。

学力向上・成果主義に囚われる今日の授業は、子どもたち相互の共同を断ち切り、生きづらさを抱える存在を排除しがちである。子どもたちが出会い直し、関係を結び合う知の共同を創造する場としての授業の意味が改めて問われている。

子どもに形成すべき学力・学習の質を問いかけながら、暮らすこと（生活）・生きること（福祉）と授業づくりの関係を正面から取り上げ、生活・福祉と授業づくりを織りあわせることによって、「格差・貧困と授業実践（学び）」という現代的な課題に迫りたいと考え、シンポジウムのテーマを設定した。

困難さを抱える子どもたちを自己責任に追い込み、排除する教育からの転換は、今日の教育政策が提起する「心の教育」や教科の「道徳化」等による対応で展望できるものではない。世界（モノ・コト）や人々とのつながりを断ち切る「貧困な授業（学び）」の現状・問題点を解明し、子どもたちの差異を包摂しながら生活と学習の共同化（平等）を図る授業実践の行方を展望したい。また、授業をめぐる教員・親・地域・関係機関との共同なども視野に入れて、今、つくり出すべき授業（学校）文化とは何かを議論したい。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(9月26日(土)) 11:20 ~ 12:10

会 場 : 4号館1階415講義室

主な議題 : 会務報告

2008年度決算

2010年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(9月26日(土)) 18:30 ~ 20:00

会 場 : 生協食堂(大学会館)

会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』、『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを、大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第38巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

9月27日(日) 9:00~12:10

自由研究8

(4号館1階411講義室)

司会者 井ノ口 淳 三 (追手門学院大学)
山 岸 知 幸 (香 川 大 学)

- 9:00 ① 近代教授理論史における学級の編成原理に関する考察
ーヘルバルト主義における学級をめぐる議論を中心にー…………… 77
熊 井 将 太 (広 島 大 学 大 学 院)
- 9:30 ② 1920年代成城小学校におけるドルトン・プラン受容をめぐる対立…………… 78
足 立 淳 (名 古 屋 大 学 大 学 院)
- 10:00 ③ 木下竹次における修身教育論の特質…………… 79
板 橋 雅 則 (筑 波 大 学 大 学 院)
- 10:30 ④ 及川平治の歴史科「菅原道真」の実践
ー当時の歴史科の授業と比較してー…………… 80
伊 藤 真 治 (滋賀大学教育学部附属小学校)
- 11:00 ⑤ フレネ教育における「市民性教育」の受容と位置づけに関する一考察…………… 81
宮 橋 小百合 (四 国 学 院 大 学)
- 11:30 ⑥ フランスの新教育運動と実験学校 (1)
ーグルノーブル市のエコール・デ・シャルムの実践を中心にー…………… 82
赤 星 まゆみ (福 山 平 成 大 学)

自由研究9

(3号館2階322講義室)

司会者 梅 原 利 夫 (和 光 大 学)
船 越 勝 (和 歌 山 大 学)

- 9:00 ① 教育内容構成に照らした感想文記述による授業評価…………… 83
荒 井 真 一 (北海道大学大学院・専門研究員)
- 9:30 ② インクルーシブ教育実践の理論的枠組み
ーイギリスにおける Inclusive Schools 論に着目してー…………… 84
今 井 理 恵 (大 阪 市 立 大 学 大 学 院)
- 10:00 ③ 主観批評の相互開示による知の共同探究…………… 85
水 野 正 朗 (名 古 屋 大 学 大 学 院)
- 10:30 ④ 特別支援教育において編成される学習集団での授業づくり…………… 86
吉 田 茂 孝 (高 松 大 学)
- 11:00 ⑤ 「授業の山場」の研究
ーその様相と、その場を支えているものの考察ー…………… 87
櫻 井 真 治 (東 京 学 芸 大 学)
- 11:30 ⑥ 授業実践の様相ー解釈
ーグループ活動を含んだ授業事例の分析ー…………… 88
田 代 裕 一 (西 南 学 院 大 学)

9月27日(日) 9:00~12:10

自由研究10

(4号館1階412講義室)

司会者 須田 勝彦 (北海道大学名誉教授)
西岡 加名恵 (京都大学)

- 9:00 ① 生活指導教師と学校づくり
—教師集団づくりに着目して— 89
上 森 さくら (大阪市立大学大学院)
- 9:30 ② 授業の観察記録を共有する授業研究会の事例と課題
—観察者のメモと報告を手がかりに— 90
坂 本 将 暢 (名古屋大学)
- 10:00 ③ 間主観主義にたつ学習評価の方法
—教師-子どもの参加型学習評価に着目して— 91
北 川 剛 司 (広島大学大学院)
- 10:30 ④ ヴィゴツキー「ポドテキスト」論が文芸の授業を変え生活を変える 92
麻 生 信 子 (「授業塾」代表)
- 11:00 ⑤ 授業研究を核とする学校づくり運動に関する総合的研究 93
狩 野 浩 二 (十文字学園女子大学)
- 11:30 ⑥ 「教材研究」における教師の協同
—改革に取り組む中学校の事例を通して— 94
○齋 藤 智 哉 (國學院大学)
○森 田 智 幸 (東京大学大学院)

自由研究11

(4号館1階413講義室)

司会者 藤 原 顕 (兵庫県立大学)
山 下 政 俊 (島根大学)

- 9:00 ① 戦後教育改革期の教員研修におけるワークショップ
—「小学校幼稚園教員研究集会」を中心に— 95
松 本 和 寿 (九州大学大学院)
- 9:30 ② <生活者>としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開 (3)
—理想に向けた学生の取り組みについて— 96
安 部 孝 (埼玉純真短期大学)
- 10:00 ③ デンマークの教員養成における PBL 型グループワークの試み 97
伏 木 久 始 (信州大学)
- 10:30 ④ 教育実習事前事後指導における模擬授業の実践 98
江 原 京 子 (群馬社会福祉大学)
- 11:00 ⑤ ユビキタス映像記録視聴システムを活用した教育実習生の教育実践能力育成支援の試みⅡ 99
○平 山 勉 (名城大学)
○後 藤 明 史 (名古屋大学)
竹 内 英 人 (名城大学)

9月27日(日) 9:00~12:10

自由研究12

(4号館2階423講義室)

司会者 阿部 昇(秋田大学)
三橋 謙一郎(徳島文理大学)

- 9:00 ① 非自覚的な読みを自覚的な読みに転換する文学教材の授業
—「文学表現の言葉」の追求における「発達の最近接領域」の設定を通して—…… 100
石井 俊樹(名古屋市立大森小学校)
- 9:30 ② 物語の授業の要素抽出と構造記述の試み
—新美南吉『おじいさんのランプ』による—…… 101
中道 豊彦(愛知県立知多翔洋高等学校)
- 10:00 ③ 文学の授業過程における、言葉の意味の自覚的・随意的適用
(言葉の意味の発達)に関する実証的研究2
—授業で発達の最近接領域を活かす試み—…… 102
森川 拓也(三重県伊賀市立壬生野小学校)
- 10:30 ④ リーディング・バランス
—読み手優位の読解指導—…… 103
大杉 稔(滋賀県高島市立新旭北小学校)
- 11:00 ⑤ 議論を中心とした学び合いの研究
—国語科議論場面における児童の発話の「引用」を中心に—…… 104
佐々原 正樹(広島大学大学院)
- 11:30 ⑥ 発達の最近接領域を規定する「現下の発達水準」・「可能的発達水準」の決定と発達
の最近接領域の授業過程(文学教材の授業の場合)の解明…… 105
官坂 義彦(元・三重大学)

自由研究13

(4号館3階433講義室)

司会者 高田 清(福岡教育大学)
藤田 昌士(元・立教大学)

- 9:00 ① 子どもの学習の道徳的次元についての理論的研究…… 106
吉國 陽一(東京大学大学院)
- 9:30 ② コミュニケーション教授学における子ども理解の方法
—教育学と精神医学の越境—…… 107
真嶋 正文(広島大学大学院)
- 10:00 ③ 生徒会活動による「学び」の回復
—大阪・千代田高校の事例から—…… 108
マニサハン・マメティ(大阪市立大学大学院)
- 10:30 ④ コールバーグ道徳教育論を基礎づける心理学の変容
—ジャスト・コミュニティにおける自我発達としての道徳性発達—…… 109
小林 将太(筑波大学大学院)
- 11:00 ⑤ 学級崩壊からの再生
—事例をもとに考察する—…… 110
福田 八重(愛知教育大学・非常勤)
- 11:30 ⑥ 教師の学級経営(教授活動を含む)を生活の演技論から考える…… 111
○小川 博久(聖徳大学)
○岩田 遵子(東京都市大学)

9月27日(日) 9:00~12:10

自由研究14

(4号館2階422講義室)

司会者 庄井良信(北海道教育大学)
的場正美(名古屋大学)

- 9:00 ① かかわり合いを深める学級文化の創造…………… 112
長谷川 清 佳(広島大学大学院)
- 9:30 ② 諸外国の教員からみた日本の学校における課外活動の生徒指導上の教育効果
—A校の音楽祭を事例として—…………… 113
早坂 淳(筑波大学・準研究員)
- 10:00 ③ 授業における演劇的活動
—1950年代の学校劇の検討をもとに—…………… 114
渡辺 貴 裕(岐阜経済大学)
- 10:30 ④ 「身体表現」の授業を基盤とした保育者養成の教育学的意義の検討
—子どもの「主体性」を育てる社会の再構成—…………… 115
松永 愛 子(岡崎女子短期大学)
- 11:00 ⑤ ドラマワークによる保育者養成
—インプロビゼーションを通して—…………… 116
小林 由利子(東京都市大学)
- 11:30 ⑥ 「ワークショップ授業モデル」による音楽表現教育の構成…………… 117
桂 直 美(東 洋 大 学)

自由研究15

(4号館3階432講義室)

司会者 光本 弥 生(鈴峯女子短期大学)
諸岡 康 哉(金 沢 大 学)

- 9:00 ① 幼稚園令制定後における「幼小連絡」の方法
—雑誌『幼児の教育』を中心として—…………… 118
森岡 伸 枝(京都大学大学院・研究生)
- 9:30 ② 幼年期カリキュラムにおけるヴィゴツキーの位置づけに関する検討…………… 119
岡花 祈一郎(広 島 大 学)
- 10:00 ③ 保育園実習指導の仕方
—保育実習(I)の学生の反省記述から考える—…………… 120
寺島 明 子(松本短期大学)
- 10:30 ④ 保育者は映像の中の他者の実践を通して自らの保育をどのように省みるのか
—未知を「解説する」という試みから—…………… 121
○岡田 たつみ(帝 京 大 学)
中坪 史 典(広 島 大 学)
- 11:00 ⑤ 幼稚園から小学校へ
—言葉の遅いS児の事例から—…………… 122
乗原 昭 徳(山口学芸大学)

9月27日(日) 13:15~15:15

課題研究Ⅲ

民間教育運動における教育実践・研究の現状と課題

(3号館2階321講義室)

コーディネーター・司会者

市川 博(帝京大学)

河原 尚武(鹿児島大学)

提案者

小林 宏己(早稲田大学) 教師の自律性と専門性の確立

—「社会科の初志をつらぬく会」における

今日的課題—…………… 123

中妻 雅彦(愛知教育大学) 「地域に根ざす」実践者

—歴史教育者協議会会誌『歴史地理教育』の

小学校実践の連載から—…………… 125

三石 初雄(東京学芸大学) 近年の「基礎・基本」重視と「現代化」の間…… 127

指定討論者

藤田 昌士(元・立教大学)

〈設定趣旨〉

IEA第3回調査において、各国の授業のビデオによる調査研究を行った際、日本の、特に小学校の教師の授業実践力のレベルの高さが称賛された。そして、その原因が、ボランティアで自主的な、つまり手弁当の授業研究にあることが着目され、それ以来、授業研究が世界的に広まっていた。

我が国では、戦前から、放課後に教室で、また宿直室で酒を酌み交わしながら、仲間同士で自主的に授業研究が進められると共に、独自にサークル・団体を結成し、国の施策とは相対的な、あるいは独立した立場から、地域・全国レベルで多様な研究・実践運動が展開され、優れた創造的な実践が積み重ねられてきた。その伝統が世界で着目される教師の優れた力量を育ててきたのである。

しかし、特に21世紀に入って、一般の教育の現場だけではなく、民間教育研究運動においても、かつての活気のある創造的な活動が弱まってきている。

そこで今日の民間教育研究運動における教育実践・研究の現状、今日的意義、弱化的原因、課題を明確にするために課題研究のテーマとして設定し、今回は、自然系、社会系、子どもの視点に基づく授業創造の立場から、科教協、歴教協、初志の会の活動に関わっている方々に提案して頂くこととした。

課題研究Ⅳ【大会校企画・公開】

方法の生成を問う—実践のビデオ映像による現象学的省察—

(3号館3階331講義室)

コーディネーター

西岡 けいこ (香 川 大 学)
瀬戸 郁子 (香 川 大 学)

司会者

西岡 けいこ (香 川 大 学)

提案者

- 中田 由紀恵 (香川県三木町立白山小学校) 子どもと一緒につくっていく授業
—表現活動を中心に—…………… 129
- 瀬戸 郁子 (香 川 大 学) 3つの大縄跳びを考える
—生きられている方法の現場—…………… 131
- 佐々木 幹郎 (詩 人) 人間の身体は言葉でできている
—日本語と遊ぶ、音で遊ぶ—…………… 133

〈設定趣旨〉

産業化の極み、経済効率を至上価値とする潮流のなかで、教育方法学に対しても、効率的なマニュアル（操作手順）の開発に勤しむ要請が強まっている。ここには知的営みをマニュアルの行使に即応させる発想があるが、それは正しい把握であろうか。

人間の知的営みの方法とは何か。方法（メソッド）の語源は道を歩くことに関連している（メタ・ホドス）。歩くとき、わたしの身体と対象との間には次々と新たな視界（ヴィジョン）が開かれ続けて五感を揺るがせ、身体の拡張である身振り・音・絵・ことばなどが表出される。これら諸々の「意味」の表出はこのわたしを「脱自（ek-stase）」させて前方に連れ出し、対象との間には「意味」に満たされた視界が開かれ続けて、また新たな表出が導かれる。こうしてわたしと対象との間に生成し続ける意味生成の全体こそ方法に他ならない。方法は実践と一体で生きられているロゴスであり、歩いた結果から切りだされる、俯瞰的に道順を示す地図、即ちマニュアルとは違う。そして教育者の営みは、様々な子どもたちを同伴者とし、地図上では同じようにみえる道を辿り直し続けていくことであろう。なぜおとなが飽くことなくそれを成せるのかと言えば、その時々には同伴する子ども達とおとなが共に身体的存在であるがゆえに互いに「脱自」し合ってひとつの意味空間が共有され、ここに、道の経験すなわち方法の「脱自」的な更新が実現されていくからであろう。地図は不要ではないが、地図の所有を道を歩く体験そのものに置き換えることはできない。今、教育方法学はこの事実の再確認を以て、マニュアル信奉への突入を回避するべきではないだろうか。そのために、方法が生きられている現場に立ち戻ることが本課題研究の意図である。中田氏と瀬戸氏とのそれぞれがビデオ映像を以て、小学校と大学での自身の教育実践を省察する報告を行い、それを、身体を重層的なロゴスのメディアとして思索を重ねて来た「詩人」の佐々木氏がコメントする。映像は、おとな（教育者）の「脱自」と入れ子状態で引き起こされる子ども（被教育者）の「脱自」に知的方法が生成するさまを映し出す。三者が展開する言説のコラボレーションが、教育者が暗然に実践している方法に関する意識を照射して生きられている方法を見えるようにさせ、会場との活発な意見交換が開かれることを期待したい。

※佐々木幹郎：1947年生 高見順賞、サントリー学芸賞、読売文学賞等を受賞

9月27日(日) 15:30～17:00

ラウンドテーブル①

教職の専門性における教員のコンピテンシーを考える — 専門職のコンピテンシーに関する研究動向の報告とワークショップ —

(4号館1階413講義室)

企画者(主催者)

伏木久始(信州大学)

司会

島田希(信州大学)

話題提供者

武田信子(武蔵大学)

坂田哲人(慶應義塾大学)

共同研究者

鎌田和宏(帝京大学)

安達仁美(信州大学)

〈設定趣旨〉

各種GPや教職大学院の発足など教師教育をめぐる動きが慌ただしくなる中、教員のスタンダード開発が先進的な大学によって取り組まれています。一方、米国を中心に展開されてきた「コンピテンシー」研究は、人材開発部門における専門職育成ニーズに合わせて、「スタンダード」に代わる概念として注目を集めてきました。このラウンドテーブルは、我が国の教員養成において求められる資質や能力等を「コンピテンシー」概念に合わせてどのようにリスト化できるのか、またリスト化した指標をどのように活用して人材育成をはかるのかを、国内外の子育て支援や保育士養成および企業の人材育成部門の先行事例を参考に考えていくという企画です。「コンピテンシーを考えるワークショップ」を通して、参加者の教育観・教師観を交流させることとなりますが、一律の規準で外部評価者によるチェックを行うのではなく、個人が主体的に行動指標を選択していくことで教職の専門性を育成していくモデルを体験的に考え合う場にしたいと思います。

ラウンドテーブル②

授業者の立場から「発達の最近接領域」の具体像 (文学教材の授業)を追求する試み(2)

(4号館2階423講義室)

司会・提案者

宮坂義彦(元・三重大大学)

問題提起者

石井俊樹(名古屋市立大森小学校)

隅内利之(東京都青梅市立友田小学校長)

戸田淳子(前・長野県伊那市立手良小学校長)

森川拓也(三重県伊賀市立壬生野小学校)

〈設定趣旨〉

ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」という仮説は、一般的には肯定的な評価を受けてきたように思います。しかし、未だにそれが実用化されたという事実や、実際の授業でその有効性が検証されたという報告は、耳にしていません。その主要な理由は、ほとんどの授業が詰め込み型で、「発達の最近接領域」を必要としていないからだだと思います。つまり「発達の最近接領域」という概念と詰め込み型の授業は相容れないものだからです。

「発達の最近接領域」を必要とする授業は、どのような授業でしょうか。

私たちは、発達の観点に立って、「発達の最近接領域」を意識しながら、主として文学教材の授業におけるイメージ変化と単語の意味の変化(発達)との関係を、実践的に解明しようと、研究を続けてきました。

今回は、以下の項目について、実際に行ってきたこととその過程で出てきた課題・問題を発表する予定です。これに対して参会者から率直な意見や疑問を出していただき、討論ができることを期待しています。

(1) 文学教材の授業のなかの「発達の最近接領域」

- ① 子どもの現下の発達水準をどう決めるか。
- ② 発達の最近接領域をどう決めるか。
- ③ 文学教材の授業の場合は、単語の生活的概念を科学的概念に移行させることが鍵になるのだが、どのような単語を対象とするか。(理論的で、展開があり、しかも頻度の高い「逆接の接続語」を対象とする研究を進めているがどうだろうか)
- ④ 「子どもは、一般化の新しい構造を最初は少数の概念、たいていは、学習過程で新たに獲得した概念に基づいて形成する。子どもがこの新しい構造を随意に使用し得ようになると、そのことだけからかれは以前のすべての概念構造をも改造し、再編成する。」「すべての個々の意味が、構造の再編成に関するあらゆる作業を自分自身で行う必要はないのである。」(『思考と言語』p337) この実践的見通しはあるのか。
- ⑤ 単語の意味の自覚と制御に必要な生活的概念の体系性、単語の定義をどう教えるか。
- ⑥ 単語の定義の適用とその効果は？
- ⑦ 発達の最近接領域内で中心になる思考活動は、論証だと思うが、どうだろうか。
- ⑧ 発達の最近接領域内では、議論は不可欠であるか。

(2) 理科の授業と文学教材の授業とでは、「発達の最近接領域」にどんな違いがあるか。

9月27日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル③

教育方法のトポロジー (2)

— ドラマワークを活用した教師研修の可能性 —

(4号館3階433講義室)

企画・話題提供者

渡部 淳 (日本大学)

共同研究者

小林 由利子 (東京都市大学)

深澤 広明 (広島大学)

宮崎 充治 (桐朋小学校)

渡辺 貴裕 (岐阜経済大学)

宮原 順寛 (長崎県立大学)

三橋 謙一郎 (徳島文理大学)

青木 幸子 (跡見学園中学高等学校)

武田 富美子 (立命館大学)

藤井 洋武 (日本大学大学院)

〈設定趣旨〉

参加型アクティビティの体系化と教師研修システムの開発を一体的に追求する「獲得型教育研究会」(代表:渡部淳)では、小学校から大学までの教師が、演劇的技法の導入によって学びの全身化を図る研究に取り組んでいる。その一環として、教科学習や進路指導、大学の教職系科目などにウォーミングアップ・ゲームや「フリーズ・フレーム」,「ティーチャー・イン・ロール」等のドラマ・アクティビティを導入し、それらの汎用性を検証する作業を続けてきた。

3年間の取り組みの結果、①参加型アクティビティ全体に占めるドラマ・アクティビティの位置づけ、②日本の教育現場で比較的適合性をもつと思われるアクティビティの種類、③ドラマワークを組み込んだ研修プログラムのデザイン、などが徐々に明らかになってきた。研究の中間的まとめを、ジョナサン・ニーランズ、渡部淳著『教育方法としてのドラマ』(晩成書房 2009年9月)として刊行予定である。

本ラウンドテーブルでは、まずこれまでの研究経過と到達点を共有していただき、ドラマワークを用いたワークショップ型教師研修の可能性と限界について検討してみたい。具体的場面として、職場単位の研修、公的セクターによる研修、免許更新講習等を想定している。

ラウンドテーブル④

教師をどう支援できるか
—「課題研究Ⅳ—方法の生成を問う」を基に—

(研究交流棟5階)

司 会

西岡 けいこ (香 川 大 学)

提案者

瀬戸 郁子 (香 川 大 学)

藤井 浩史 (香川県教育委員会義務教育課主任指導主事)

佐々木 幹郎 (詩 人)

〈設定趣旨〉

本ラウンドテーブルは、課題研究Ⅳを基に、さらに発展的な別の切り口からの検討を行う趣旨のものである。課題研究Ⅳで、方法とは、教師と子どもとが共に「道を歩む」こととして開かれる意味生成の出来事であることを提起した。こうした境位に降りるならば、もはや、教える方法と学ぶ方法とは別々のものではありえない。それらは、そこに開かれている出来事の全体を、教師の側から語るか、子どもの側から語るかの違いにすぎない。この、教えと学びとの不分離性と全体性はまた、教師を支援する者と教師との間にも成立するだろう。そして、教師の支援者とは誰か？およそこの世界が、おとなと子どもという異世代に展開されて成り立っている事実に鑑みるならば、すべてのおとなは子どもとの関係のなかに在り、子どもと直接的に関わる日常を過ごしているのではなくとも誰もが、教師の支援者でありうるのだと言えよう。

今、教育方法学に対し効率的な教授マニュアルの開発に勤しむことを要請する社会的動向（研究者よりも学習塾講師を現職教員研修に重用する等）があることに抗し、敢えて、原理的発想に立つことを以て、教師の支援について語り合うことが必要であると考え、本ラウンドテーブルを設定するものである。参会の方々からの率直な発言を期待したい。

※尚、このラウンドテーブルに際して、「課題研究Ⅳ」から引き続いての提案者のひとりである詩人の佐々木幹郎氏に、香川県白山小学校3年赤組での詩の授業をお願いした（9月25日に実施の予定）。若干名の参観が可能であるので、希望される会員は、下記にお問い合わせいただきたい。